

平成 17 年度

幼児（3・4・5歳児）をもつ保護者の

子育てに関する調査のまとめ **ダイジェスト**

～ 10年の推移をふまえて～

# 子どもとともに育つ 親をめざして

## 子育てや家庭教育について みんなで考えてみませんか？



福岡県教育委員会では、平成17年度に「幼児（3・4・5歳児）をもつ保護者の子育てに関する調査」を実施しました。

この調査は、平成7年度から同じ幼稚園・保育園（所）の保護者にご協力いただき、5年ごとに実施しており、今回で3回目となります。

今回の調査や10年の推移をもとに、現在の親の子育ての実態や思いをまとめました。

これからの子育てや家庭教育の在り方を探るヒントとして活用していただければ幸いです。

対象者：県下17幼稚園、21保育園（所）の  
3・4・5歳児を持つ父親、母親  
有効回答数：父親 1,666名、母親 2,231名  
グラフについては、無回答の度数を省略しています。  
H7～H17年度の経年比較のデータは4・5歳児の親のデータです。

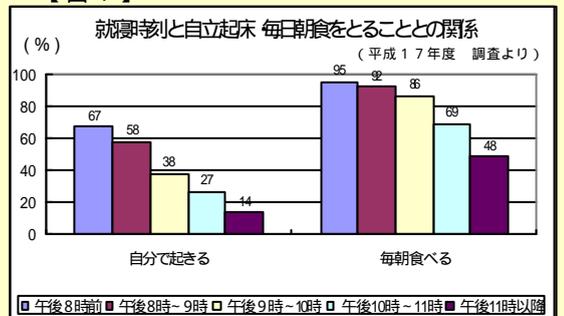
編集 / 発行

福岡県立社会教育総合センター  
（福岡県ボランティア実行委員会）  
糟屋郡篠栗町大字金出3350-2  
TEL 092-947-3512

## 幼児期から「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底を！

- ・乳幼児期からの生活リズムや食生活の乱れは食欲不振や心身の疲労感をもたらし、活動への意欲を奪います。
- ・今回の調査では、2割近くの子どもが朝食を毎日食べていないことがわかりました。また、【図1】のように、就寝時間が遅くなるほど「自分で起きる」「毎日朝食をとる」割合が低くなっていることがわかりました。「夜、遅くまで起きる」「朝起きられない」「朝、食欲がない」「朝食を食べられない」「無気力になる・いらいらする・集中できない」「昼過ぎから身体が目覚め始める」「夜寝付きが悪い」「朝起きられない」というように、悪循環になります。この悪循環を断ち切ることが大切ではないでしょうか。
- ・理解はできても、実行することは非常に難しいものです。夜9時には一度寝かしつけてみるなど、一つずつ、できることから実践していきましょう！

【図1】

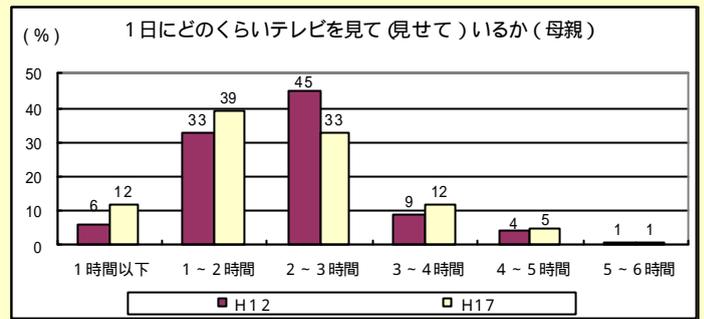
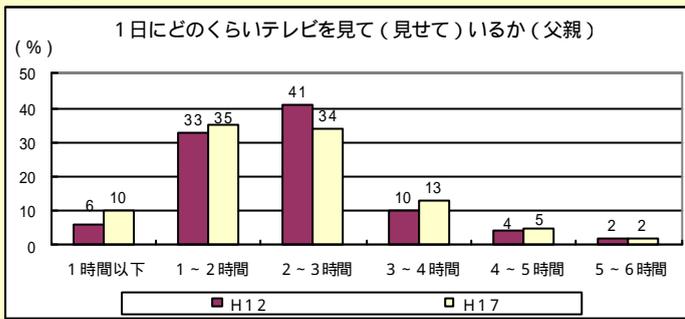


# テレビやビデオに子守をさせないで！

- ・乳幼児期からのテレビづけ育児は、視聴覚機能等への悪影響が心配されるだけでなく、子どもの成長発達に不可欠な外遊びや生活体験の時間と機会、親子がふれあったり交流したりする機会を奪ってしまいます。
- ・今回の調査では、【図2】のように、テレビの視聴時間は「1～2時間」と答えた割合が一番高く、平成12年時と比べ減少傾向にあります。しかしながら、「3～4時間」「4～5時間」と答えた割合も若干増加しており、わずかながら二極化の傾向がうかがえます。これに、ゲーム等に関わる時間が生じてきていることにも留意が必要です。

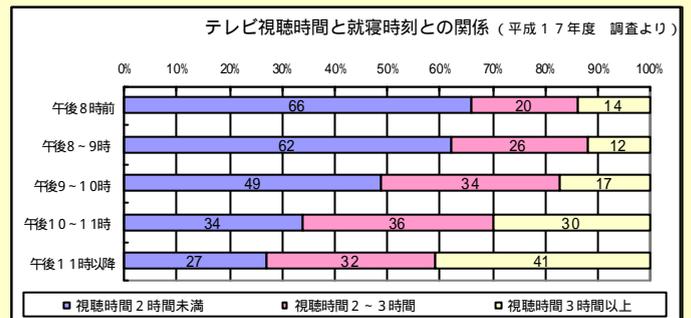


【図2】



- ・【図3】のように、テレビの視聴時間が長いほど、就寝が遅くなる傾向がわかります。
- ・乳幼児期に必要な以上にメディアに接し続けると、運動不足からくる食欲不振や遅寝、睡眠不足など、生活リズムの乱れにつながるとともに、言葉の発達が遅れたり、自分の感情をコントロールする力が弱くなったりするといった弊害も心配されています。
- ・とりかかりとして、「食事の時はテレビやビデオ等は消す」「テレビ視聴についてルールを決める」など、できるところから始めましょう！

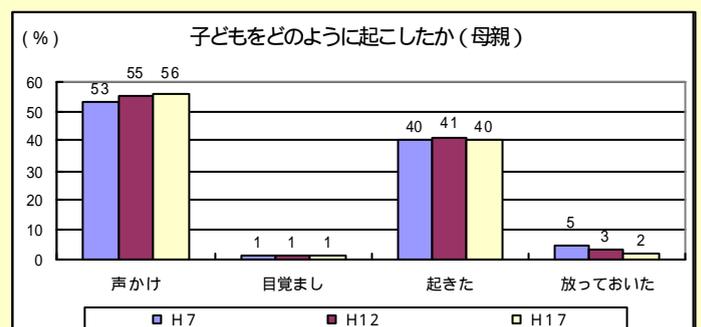
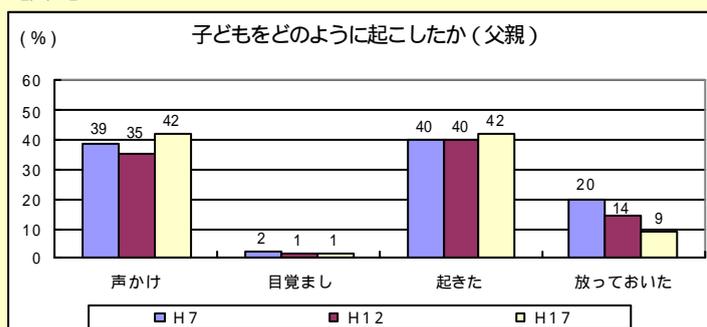
【図3】



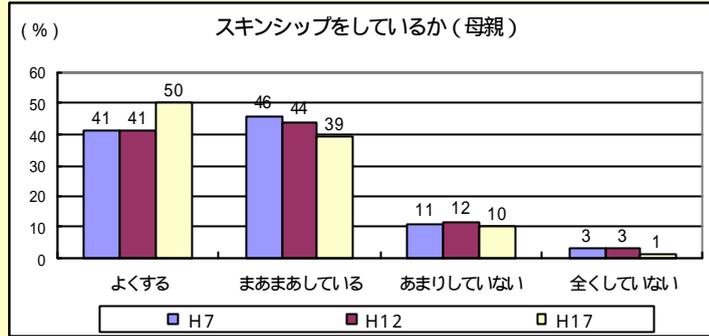
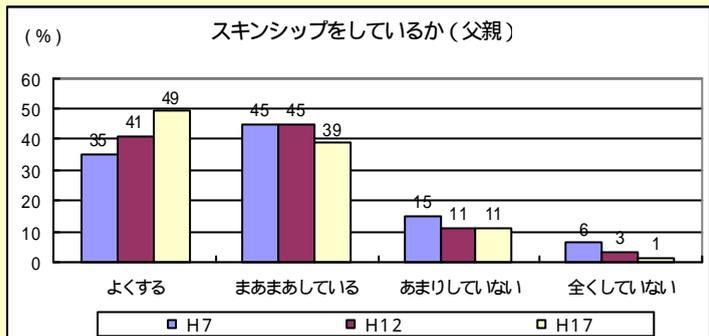
# 子どもの自立をめざす家庭教育を！

- ・子どもにとって最も影響力のある子育て環境は家庭です。
- ・【図4】～【図6】、【図8】に見られるとおり、「子どもの起床への関わり」等、父親の子育て参加は進展し、父親の自信は深まっていますが、一方そのことが必ずしも母親の「しつけへの自信」や「子育ての楽しさの拡大」につながっていないこともわかりました。

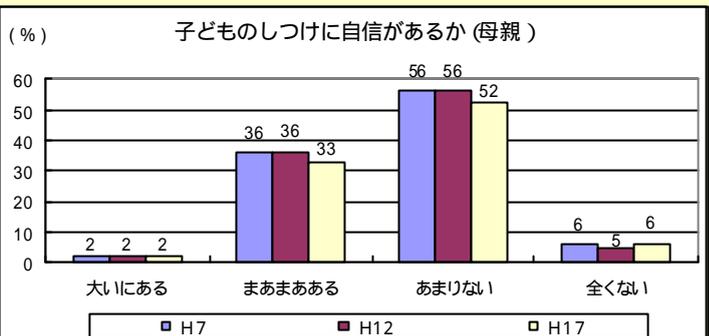
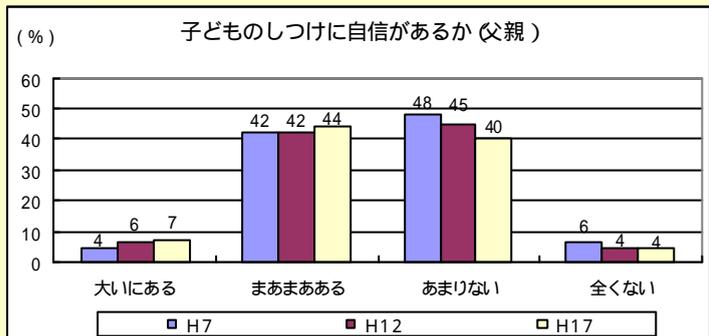
【図4】



【図5】

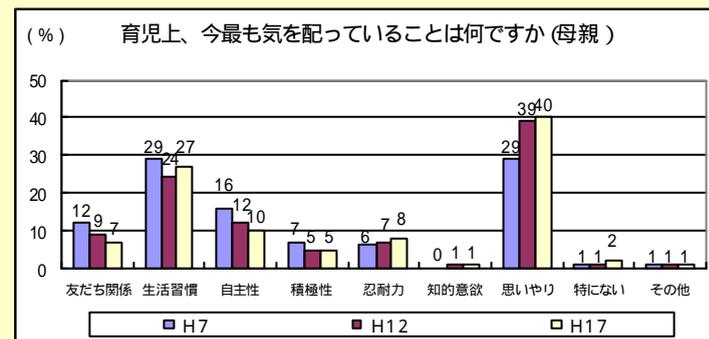
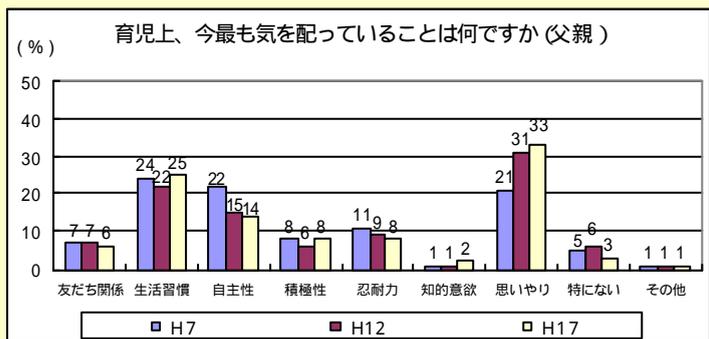


【図6】



・【図7】に見られるとおり、家庭教育で最も気を配ることが両親ともに「生活習慣」から「思いやり」へと変化してきました。このことは、人間関係の難しさを親自身が身をもって感じていることと関係しているのかもしれませんが、基本的な生活習慣の確立が幼児期の重要な発達課題であるにもかかわらず、家庭における取り組みがおろそかになっていないかと心配です。

【図7】



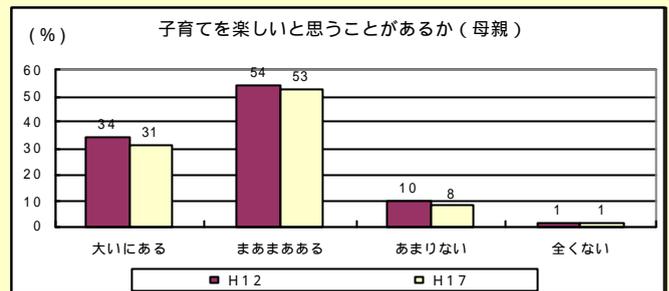
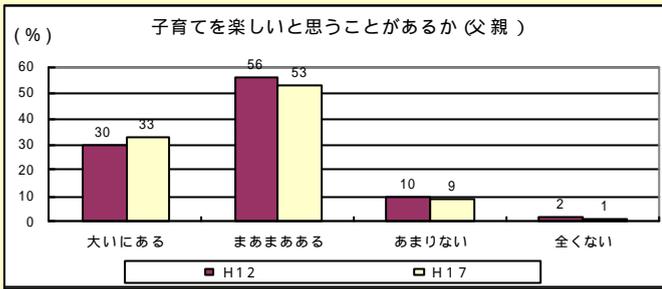
・これからは、父親の積極的な参加がさらに期待されるとともに、ふれあいの中身が過保護・過干渉になっていないか、子どもの成長に本当に必要な体験をさせているか、子育ての基本事項をおさえ、責任ある大人になるための教育をしているかなど、父親も母親も子育ての在り方についてともに学び、振り返ってみることが大切ではないでしょうか。



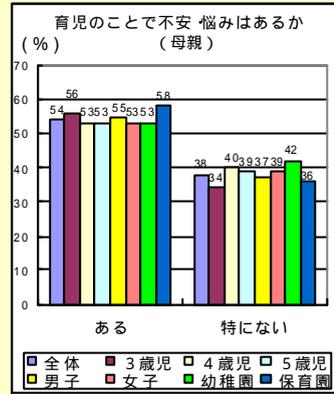
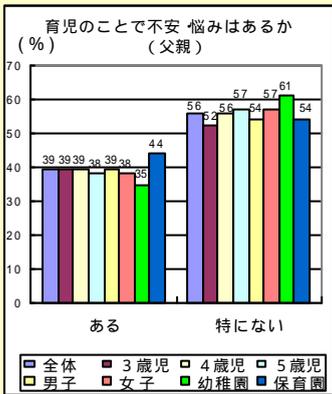
# 支え合う親どうしのつながりをつくろう！

- ・複雑な現代社会の中で、また多様な価値観の中で、親は様々な不安や心配を抱えています。
- ・今回の調査では【図8】のように「子育てを楽しい」と思うことが「大いにある」「まあまあある」と答えた父親は前回同様なのに対し、母親の割合は増えていないことがわかります。

【図8】

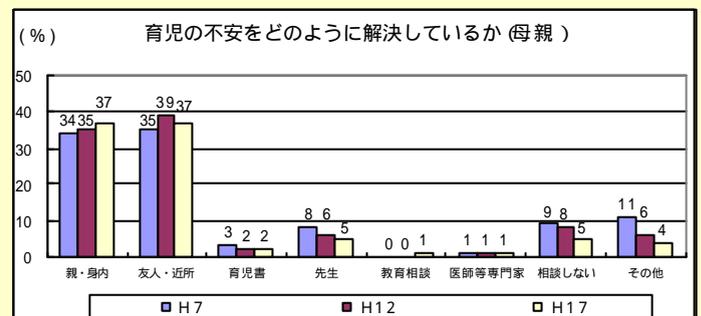
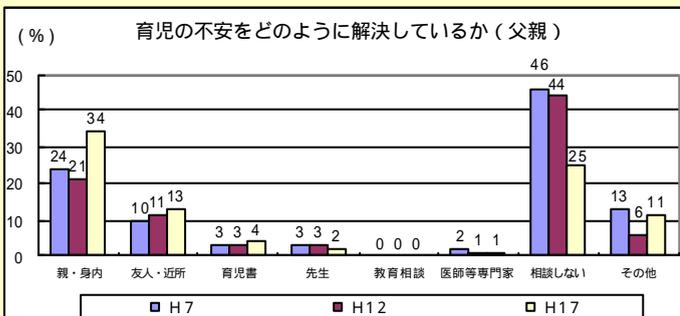


【図9】 (平成17年度 調査より)



- ・【図9】のように「育児における不安・悩みの有無」に関しては、約4割の父親と半数以上の母親が不安を抱えていることがわかりました。しかし、育児不安の解決法については【図10】のように、父母ともに「相談しない」割合が減り、身近な人に相談する傾向が高まっていることがわかりました。

【図10】



- ・親が子育てをふり返り、よりよい家庭教育を行うためには、学びあいが必要です。雑誌等による知識だけでなく、実際に他の家族と交流したり、多様な子育ての現場に出会ったりといった機会の中で、親は子育てに生きがいや楽しさを感じていくのではないのでしょうか。
- ・これからは、子育て支援の一方策として、親が育てやすい環境づくりが強く求められています。親どうしのつながりはもちろんのこと、子育てグループ、団体間のネットワークづくりを推進していきましょう。行政には、各関係機関や幼稚園・保育園(所)等が連携して親に対する交流や学びの機会の提供と子育てグループや団体を支援する努力が求められています。

一人で悩まず 気軽にアクセス！

子育てお役立ち情報 [ふくおか子育てパーク](http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp) 出会い 学び つながるサイト

<http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp>

携帯サイトは <http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/m>

家庭教育相談「おや親電話」092-947-3515・月～土曜・9:00～21:00

21:00～翌朝9:00までは留守番電話またはFAXで受け付けます。(第2月曜、祝日・年末年始は除く)